様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月 １６ 日現在

機関番号：２３８０４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ０２４２０

研究課題名（和文）中世後期における諏訪信仰の総合的研究

研究課題名（英文）Comprehensive Research on Late Medieval Suwa Worship

研究代表者
二本松　康宏（NIHONMATSU, YASUHIRO）

静岡文化芸術大学・文化政策学部・教授

研究者番号：９０５１５９２５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：中先代の乱と観応の擾乱を経て大祝諏訪氏の権威が弱体化したことにより、南北朝期以降の諏訪信仰では新しい縁起（神話）が創出され、むしろ多様な信仰的営為を生み出した。神長官守矢氏や権祝矢島氏は大祝に対抗する信仰勢力として新しい縁起の創出に積極的な関与を示し、また小県郡や佐久郡でも諏訪明神の再現が相次ぐ。同じ頃、室町幕府に出仕した京都諏訪氏もまた、「諏方大明神画詞」を聖典とする京都における新しい信仰を創出しつつあった。信州や京都から離れた南九州地方において「諏訪縁起」（兼家系）の神話が流布してゆくのもやはりこの時期以降であると考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は「中先代の乱」と「観応の擾乱」を契機もしくは転換期として諏訪信仰の再創成を解明しようとした試みである。とくに大祝家や守矢氏、矢島氏をめぐる膨大な古文書や系図、縁起などを調査し、その内容を再検討することによって、信州諏訪における信仰の継承と京都諏訪氏による信仰の創出の連動が確認されたことは画期的な成果と言えるだろう。
また、従来、学術的に顧みられることが少なかった信州佐久郡に伝わる諏訪信仰の古典的な祭祀とその縁起について新しい知見を示すことができたのも大きな成果と言えよう。

研究成果の概要（英文）：Due to the weakening of the authority of the Ohori of the Suwa clan after the Nakasendai Rebellion and the Kanno Disturbance, new origin stories were created in the Suwa faith of the Nanboku-cho period and beyond. This ultimately gave rise to a variety of religious activities. The Moriya clan Jinchokan and the Yajima clan Gon-no-hori demonstrated active involvement in the creation of the new origin stories as religious forces that rivaled the Ohori. There were also successive revivals of Suwa Myojin in Chiisagata District and Saku District. Around the same time, the Kyoto Suwa clan that served under the Muromachi Shogunate was also creating a new faith in Kyoto that considered the “Suwa Daimyojin Ekotoba” as its sacred scripture. It also appears to have been from this period that the mythology of “Suwa Engi” spread in the Southern Kyushu region located far from Shinshu and Kyoto.

研究分野：日本文学（伝承文学）

キーワード：諏訪信仰　大祝　神長官　諏訪大明神画詞　諏訪縁起　甲賀三郎　京都諏訪氏

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

（1）本研究の発端は 2013 年 9 月に開催された公開シンポジウム「諏訪信仰と伝承文学」（伝承文学研究会主催、長野県短期大学）での討論に遡る。同シンポジウムには、本研究の代表者となる二本松康宏がパネラー兼司会として、研究分担者となる二本松泰子もパネラーとして参加した。シンポジウムの目的は、戦前からの郷土史的な範疇に留まる諏訪研究の現状（遅れ）を訴え、従来の研究手法を刷新する学術的かつ学際的なアプローチによる研究の必要性を提案するものであった。同シンポジウムでの成果をもとに二本松康宏（伝承文学）を代表として、中澤克昭（日本史学）、永松敦（民俗学）、二本松泰子（日本文学・放鷹文化）らは「中世前期諏訪信仰研究会」を立ち上げ、2014 度～2017 年度科学研究費補助金・基盤研究(C)「中世前期における諏訪信仰の総合的研究」（研究課題番号：26370207）の助成を受けて、中世前期すなわち鎌倉時代における諏訪信仰の実相の解明を目指した。まずは中世前期に成立したとされる諏訪信仰の縁起群について、それぞれの専門分野から各論的な考証を提示し、それを議論・検討してゆくというかたちで研究を進め、その成果の一部は『諏訪信仰の中世―神話・伝承・歴史』（二本松康宏・福田晃・徳田和夫編、三弥井書店、2015 年 9 月）に収めて公開した。

（2）中世前期の諏訪信仰に関する研究を進めるなかで、南北朝時代のいわゆる中先代の乱を契機として諏訪上社を中心とする信仰の体系や形態、思想、そして信仰そのものまでが大きく変動したことが判明してきた。鎌倉時代には「神と同体」として崇敬された大祝の権威が失墜することにより、南北朝時代以降の諏訪信仰は多様闊達な展開を示す。そうした諸相を考証してゆくために本研究会のメンバーが注目したのは以下のテーマである。

① 諏訪市博物館に所蔵される大祝家文書と同館に寄託されている権祝矢島家文書の解析
②『諏訪大明神画詞』の著者である諏訪円忠と京都諏訪氏の活動
③ 中先代の乱と観応の擾乱を契機とする、いわゆる「諏訪縁起」の在地的再生

以上の①～③について、あらたな学術的かつ学際的な研究を推し進めるために、「中世前期」からの次への前進的展開として「中世後期における諏訪信仰の総合的研究」の必要性に至った。

２．研究の目的

（1）前述のように、中世前期の諏訪信仰において上社大祝の由緒と権威を書き記したとされる「諏訪上社物忌令」「大祝信重解状」「陬波御記文」「陬波私注」等の再検討によって、そうした縁起のうちの一部については、その制作が南北朝期から室町時代に下る可能性が見えてきた。それは縁起の内容そのものが南北朝期から室町時代に制作された意味ではなく、南北朝期から室町時代にかけて、そうした縁起が積極的に成文化されるようになったという解釈である。中先代の乱と観応の擾乱による大祝の権威の弱体によって生じた「諏訪信仰の再生」ともいうべき営為がそこに予想される。そこで、本研究においては以下のテーマに注目し、まずは各論的な研究を進めながら、漸次、その統合を目指すことにした。

① 中世後期における大祝の動向
② 京都諏訪氏の信仰活動と文化活動
③ 中先代の乱と観応の擾乱以降の「諏訪縁起」の再生

（2）中世後期における諏訪信仰は諏訪と京都において連動的な展開を見せ、多彩な文化伝承を創出した。それは上社を中心とする信仰と京都諏訪氏によって創出された信仰とか連動していたことを反映したものであろう。本研究では、そうした信仰的営為の実態を明らかにするべく、大祝家文書、矢島家文書、守矢家文書などの調査と考証に取り組む。とくに系図や系譜、縁起に記された神話を体系的に精査し、中世後期における諏訪信仰の再創出の様相を解明してゆく。

３．研究の方法

新たな課題への進展とともに「中世前期諏訪信仰研究会」は「中世後期諏訪信仰研究会」へと移行した。これまでのように各論的なアプローチからの提案を持ち寄ることによって、漸次、その統合を図りつつ、課題の解明を目指す。

（1）中世後期における大祝の動向について（二本松康宏、二本松泰子）

諏訪市博物館に所蔵される大祝家文書や権祝矢島家文書の調査により、とくに大祝家に関わる系譜類や縁起を中心としたテキストの精査・解析を進める。

（2）京都諏訪氏の信仰活動と文化活動（二本松泰子、中澤克昭）

大祝家文書、矢島家文書、守矢家文書などに含まれる縁起系のテキストについて分析し、それらの縁起の京都諏訪氏にゆかりのテキスト類に記される縁起との比較検討を通して、大祝家と京都諏訪氏との連絡において育まれた信仰体系の実相とその伝播の経緯を明らかにする。また京都諏訪氏周辺の宗教的テキストから京都諏訪氏による信仰の生成を考証する。

（3）中先代の乱と観応の擾乱以降の「諏訪縁起」の再生

南北朝期から室町時代における信州各地の「反大祝」系や「非大祝」系の諏訪信仰について、縁起や由緒、祭祀などを観察・検証することにより、その再生過程を考証する。また、南九州地方における「諏訪縁起」の調査を進め、その展開の諸相を探る。

４．研究成果

（1）2017 度～2018 年度までの研究成果として『諏訪信仰の歴史と伝承』（二本松康宏編、三弥井書店、2019 年 1 月、A5 版 260 頁）を刊行した。研究代表者および研究分担者による論攷は以

下のとおりである。二本松康宏「諏訪縁起の再創生―『伊那古大松原大明神縁起』の情景―」、中澤克昭「『広疑瑞決集』と殺生功徳論」、永松敦「諏訪信仰における野焼きと集団狩猟」、二本松泰子「『諏訪信重解状』の新出本と『諏方講之式』―大祝家文書の中の諏訪縁起―」。また、柳川英司「遺跡と寺院創建伝承にみる中世前期の諏訪地方」、村石正行「細川氏内衆丹波上原氏と諏訪信仰―諏方同名氏族の一族分業論」、石井祐一朗「『諏訪大明神絵詞』成立についての試論―室町幕府奉行人諏訪円忠の絵巻制作―」の論攷を掲載している。さらに、新出資料として諏訪市博物館所蔵大祝家文書『神氏系図』の影印を紹介し、二本松康宏による解題を掲載した。

（2）上記の成果を継承し、2019 年 9 月には公開シンポジウム「諏訪縁起の伝承世界」（伝承文学研究会主催、長野県立大学）を開催した。二本松康宏はパネラーとして「「諏訪縁起」の生成風景―蓼科山から新海社へ―」を提言し、二本松泰子もパネラーとして「大祝家の諏訪縁起―守屋山垂迹縁起をめぐって―」を発表した。それらは諏訪縁起、すなわち中世神話の奔流から中世後期の諏訪信仰を鳥瞰し、さらに新たな「諏訪学」を問うものである。

（3）中先代の乱と観応の擾乱を経て大祝諏訪氏の権威が弱体化したことにより、南北朝期以降の諏訪信仰では新しい縁起（神話）が創出され、むしろ多様な信仰的営為を生み出した。神長官守矢氏や権祝矢島氏は大祝に対抗する信仰勢力として新しい縁起の創出に積極的な関与を示し、また小県郡や佐久郡でも諏訪明神の再現が相次ぐ。同じ頃、室町幕府に出仕した京都諏訪氏もまた、「諏方大明神画詞」を聖典とする京都における新しい信仰を創出しつつあった。信州や京都から離れた南九州地方において「諏訪縁起」（兼家系）の神話が流布してゆくのも、やはりこの時期以降である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計5件（うち査読付論文　5件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 二本松康宏	４．巻 69
２．論文標題 「諏訪縁起」の風景 ―蓼科山と雨境峠から―	５．発行年 2020年
３．雑誌名 伝承文学研究	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 二本松泰子	４．巻 69
２．論文標題 大祝家の諏訪縁起―守屋山垂迹縁起をめぐって―	５．発行年 2020年
３．雑誌名 伝承文学研究	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 二本松泰子	４．巻 71-9
２．論文標題 鷹匠と鷹書制作（下）―諏訪藩の鷹匠伝来の新出資料を手掛かりに―	５．発行年 2019年
３．雑誌名 信濃（第3次）	６．最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 二本松泰子	４．巻 71-8
２．論文標題 鷹匠と鷹書制作（上）―諏訪藩の鷹匠伝来の新出資料を手掛かりに―	５．発行年 2019年
３．雑誌名 信濃（第3次）	６．最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 二本松泰子	４．巻 1
２．論文標題 諏訪藩の鷹匠に伝来した鷹書（新出資料）について ―鷹和歌の記載を中心に―	５．発行年 2019年
３．雑誌名 グローバルマネジメント（長野県立大学）	６．最初と最後の頁 41-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計14件（うち招待講演　11件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 二本松康宏
２．発表標題 望月の牧を再検証する―牧の真相から―
３．学会等名 平成31年度佐久市立望月歴史民俗資料館講座（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 二本松泰子
２．発表標題 武家の鷹術―近世諸藩の鷹書から―
３．学会等名 カントリーサイド生業史研究会第2回フォーラム「狩猟書の比較史」（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 中澤克昭
２．発表標題 獲物としての鹿―『諏方大明神画詞』と『狩詞記』―
３．学会等名 カントリーサイド生業史研究会第2回フォーラム「狩猟書の比較史」（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 二本松康宏
２．発表標題 「諏訪縁起」の生成風景―蓼科山から新海社へ―
３．学会等名 伝承文学研究会令和元年度大会公開シンポジウム「諏訪縁起の伝承世界」（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 二本松泰子
２．発表標題 大祝家の諏訪縁起―守屋山垂迹縁起をめぐって―
３．学会等名 伝承文学研究会令和元年度大会公開シンポジウム「諏訪縁起の伝承世界」（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 二本松康宏
２．発表標題 甲賀三郎伝承の道―蓼科山・雨境峠の祭祀遺跡をめぐって―
３．学会等名 中世後期諏訪信仰研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 中澤克昭
２．発表標題 安政3年写「信濃国諏訪御本地」について
３．学会等名 中世後期諏訪信仰研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 二本松泰子
２．発表標題 廣田宗綱の鷹書について
３．学会等名 伝承文学研究会第452回東京例会
４．発表年 2018年

１．発表者名 二本松康宏
２．発表標題 甲賀三郎伝承の生成
３．学会等名 平成30年度佐久市立望月歴史民俗資料館講座（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 永松敦
２．発表標題 野焼きが育てた日本文化―茅・屋根・信仰―
３．学会等名 第12回全国草原サミット・シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 二本松康宏
２．発表標題 佐久郡と諏訪信仰
３．学会等名 平成29年度長野県神社総代会東信連合会総会 長野県神社庁・長野県神社総代会（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 二本松康宏
２．発表標題 中世の諏訪信仰
３．学会等名 第49回全国諏訪神社連合大会総会 諏訪大社・全国諏訪神社連合会（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 永松敦
２．発表標題 神楽の中世と伝承文学
３．学会等名 伝承文学研究会平成29年度大会（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 永松敦
２．発表標題 日本における海の信仰
３．学会等名 韓国馬韓文化祝祭（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

〔図書〕　計4件

１．著者名 上智大学文学部史学科編（共著）	４．発行年 2019年
２．出版社 SUP上智大学出版	５．総ページ数 358
３．書名 歴史家の調弦	

１．著者名 二本松康宏（編）	４．発行年 2019年
２．出版社 三弥井書店	５．総ページ数 260
３．書名 諏訪信仰の歴史と伝承	

１．著者名 中澤克昭	４．発行年 2018年
２．出版社 山川出版社	５．総ページ数 432
３．書名 肉食の社会史	

１．著者名 二本松泰子	４．発行年 2018年
２．出版社 三弥井書店	５．総ページ数 394
３．書名 鷹書と鷹術流派の系譜	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	永松　敦 (NAGAMATSU Atsushi) (30382451)	宮崎公立大学・人文学部・教授 (27601)	
研究分担者	中澤　克昭 (NAKAZAWA Katsuaki) (70332020)	上智大学・文学部・教授 (32621)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	二本松　泰子 (NIHONMATSU Yasuko) (30449532)	長野県立大学・グローバルマネジメント学部・准教授 (23603)	